

2018年の抱負

1. 「古希」を迎えるに当って

右掲は、昨年9月23日に発信した558号に添付した資料から切り抜いた物です。尊敬する広島の木原先生から毎週頂くディレクターメッセージにあった「七十は得ること多し」に着目して書いた記事の一部です。今年満69才になり、いわゆる「古希」を迎える事になります。私も自然と加齢による変調が各所に出ており、徐々に「弱気」になりつつあったのですが、先生の「七十は得ること多し」に勇気づけられて発奮している所です。

孔子の時代は70才は稀であり、まさに「古希」だったと思いますが、今は長寿大国と言われて男性も80.7才となり、私に近い70才の平均余命は15.72年で約86才までいるとの事で、90才に届く可能性も高くなっており男性でも約4分の1、95才でも約9%が生存しているという長寿時代なのです。今後も医学の発達で長寿化が進むと思われます。

まさに、「百歳現役」を目指す時代になっており、その為には眼前の日々を健康に過ごす必要があるのです。眼前の日々が「充実」した物にするには、「夢」のような物が必要であり、木原先生から70代に「一花咲かす」と課題を頂いたのです。「もう一花」とはどんな物かイメージがつかないですが、一つは会社が発展するという事で「花」が開くのだと考えています。従って、孔子のように「矩を論えず」という安全運転ばかりではなさそうなのです。安全運転であるには蓄えが必要であり、健康ならば自ずから蓄えが増えて行くので健康習慣を継続する必要があります。

右掲はサミュエル・ウルマンの「青春」という詩ですが、真ん中の3行を拡大していますが、「信念・自信・希望」の3つを持ち続ける事が大切であり、若さとは肉体の若さではなく精神の若さだと説いているのです。まさに、失いかけていた「信念・自信・希望」の3拍子を取り戻すことが大切だと悟ったのです。これからは健康習慣を持続して「10年先の体づくり」を目標にして自分なりの道を歩んで行きたいと思っています。

2. 「寄る年波」vs「もう一花咲かせる」

木原先生やサミュエル・ウルマンの「青春」に励まされて「もう一花咲かせる」と元気を出していますが、「寄る年波」との戦いである事には相違ありません。「百歳現役」と口では言っても、現実の身体の変化は隠せないものがあります。「健康習慣」として、毎日の「流れ」の中に織り込んで、ウォーキングやカラオケそして地域の方との交流などを取り入れて充実感を増しています。さらに、昨年から自炊を始めて調理をするようになり、お蔭様で減塩効果が出ており血圧もますますの範囲で推移しています。経営の方もお客様に恵まれて黒字が続いており、少しずつ余裕を取り戻しています。

このようなベースがあつての「もう一花」だと実感しています。中小企業家同友会「理念」のいの一番が「自主的近代化と強靱な経営体質づくり」ですが、まずは、健康でありお客様に恵まれて経営が安定する事が肝腎であります。「もう一花」はどのような咲き方が分からないが必ず来ると信じて「福の神様」を待ちたいと思っています。その為に、「信念・自信・希望」の3つを持ち続けたいと思います。「希望」はベースをしっかりとさせないと実現のチャンスが来ないと覚悟して、「信念」を貫き「自信」がグラつかないようにして行きたいと思っています。

人生、百歳は古来稀なり 九十は奇とするに足る無し
八十は大いに為すべし 七十は得ること多し

木原 伸雄

吾、十有五にして学に志す。(志学)

三十にして立つ。(而立)

四十にして惑はず。(不惑)

五十にして天命を知る。(知命)

六十にして耳順(したが)ふ。(耳順)

七十にして心の欲する所に従へども、矩(のり)を踰(こ)えず(不踰矩)

論語：為政より

青春

青春とは人生のある状態を言うのではなく心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意志、多岐な情熱、広闊な好奇心、反動を伴う燃ゆる熱心、こう思う精神を専らと誓うのだ。心を奮立たせて人は思ひ、情熱を失う前に形も老い、或月は反動のしわを帯びず情熱を失う時に精神はしばし、苦悶や、屈辱、不安、恐怖、失望、こう思うものこそ何れも長年月の如く人を奮い立たせ、情熱を燃ゆるものに時を待たせよう。年は七十で暮らさなくてはならぬ。その精神に打ち勝つものは何か、巨く屈辱の災禍に「心」にひらめく意思、その時々にも似たる事物や思想の対する欲念、事に處する剛毅な決意、小元の前決めて止まぬ決意、人生への歓喜と興味。

人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる
人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる
希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる

大地より、神より、人より、愛と信仰、勇気と力大、偉力と豊盛を受け得る限り人の神は失われぬ。これらの豊盛が絶え、志願の白雲が人の心の奥までも巻いつくし、反動の力がこれを破くとどすに及ればこの時こそ人は全く老いて神の懐れも乞う暇はなくなる。

人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる
人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる
希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる

3. 世代交代へ準備

‘95年7月3日に創業したので本年は創業23周年を迎えます。右掲は530号に掲載した物です。新潟の中小企業家同友会の物と日経新聞の物と2つ載せています。日経の数字は30年後は0.025%と新潟同友会の17.6%とはかけ離れた数値になっています。「企業30年説」が都市伝説的にありますが、両方の数値から見ても30年が一つのポイントと思います。

当社が30周年の時、私は76才なので辛うじて現役でおれるかという感じています。現役を続けるには「資金ショート」しないという事がベースで、その為に「お客様」と「社員」がキーになります。「お客様」は「商品」にお金を払うので「商品」を明確化しなければなりません。今、三男がシステムで頑張っており、お客様の業務改善に貢献しています。この経験を通じて得たものがベースで、その蓄積で「効率化」と「信頼」を高めて行けると確信しています。去年、三男が中小企業家同友会の青年部に入会して、自身と商品を広める活動に着手しました。芸能人では顔を見て名前が浮かぶようになれば1億円の年収と言われるように、顔を広める事が経営者として重要な仕事と考えています。「7人の友達」というトヨタの格言がありますが、三男にもいろんなタイプの友人が出来て、よい相談相手になって頂けることが重要と思っています。小さな会社が生き延びるのは難しい時代ですが、多くの知人・友人を得て、その中から信者（ファン）が生まれれば、お客様の「業務改善」という商品で貢献していけると確信しています。

4. 「信念」x「自信」x「希望」で「Joy&Fun！」

堀場製作所の故堀場雅夫さんを表す言葉に「Joy&Fun」があります。Joyは喜び、Funは楽しむという意味であり、Joy&Funとつないで「おもしろおかしく」という風に使われています。ともかく、仕事も人生の内なのだから、そして、少なくとも8時間（1日の1/3）を費やすので「楽しい」方が有意義であるのは間違いがないのです。堀場さんの著書に「イヤならやめろ」がありますが、「イヤ」になったと言えるほどトコトン努力したかと問われています。努力もしないで「イヤ」という人が多いように思いますが、それでは「負け犬」的ではないかと思えます。私自身は、今年満69才になり「古希」という事ですが、サミュエル・ウルマンの「青春」にあるように精神の若さを保ち、その精神エネルギーを発揮できる健康な体力を保持するように「健康習慣」を持続しています。

まず、「信念」ですが、「21世紀は企画の時代」という事を信じて船井総研で客員経営コンサルタントの資格をとり、「形は心を動かす」と「ちらしはお客様への手紙」という信念で販促の指導に当たっています。この「形」を実践する為に恵美さんがして信念を支えてくれています。また、「数字」という「形」では三男の将男がシステムの面で頑張ってくれており「数字は命令する」を実践してくれています。私の仕事としては、この2人と一緒に進める事で実績を挙げています。

この「実績」が「自信」の素になっており、お客様をよくする事で自社も繁栄するという「希望」を持ち続けています。「自信」と「希望」は相乗するもので、どちらが萎んでも「信念」x「自信」x「希望」なので全体が萎んでしまいます。特に、「自信」という精神面が発するオーラが大切であり、オーラを失ったら魅力が薄れてしまうのです。もちろん、おじいちゃんである事に相違ないので、孫たちの成長も楽しみであります。同じように、地域社会とも交流が深まって行くので、この活動も「Joy&Fun」でなければ、意義がないと思っています。本当に、トコトンやり抜いて人生を多くの友人と一緒に「Joy&Fun」して行きたいと思っています。

会社の寿命

10年続く企業は51.6%、
20年続く企業は27.5%、
30年続く企業は17.6%、
40年続く企業は10.6%、
50年続く企業は6.8%、
60年続く企業は4.4%、
90年続く企業は1.1%
となる。

新潟県中小企業家同友会のWeb記事より

・ 1年後	60%
・ 3年後	38%
・ 5年後	15%
・ 10年後	5%
・ 20年後	0.39%
・ 30年後	0.025%

日経新聞の記事より

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryu.html> !】